

大学の世界展開力強化事業（平成 29 年度採択）中間評価結果

大 学 名	北海道大学
整理番号	A101
事 業 名	持続可能な輸送システムと社会インフラ構築のための国際共同研究力育成プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
コメント 本プログラムは、主として学部生を対象とするチームメンバー型と大学院生によるチームリーダー型のカテゴリーによって階層的に構成し、インドにおける輸送システムと社会インフラ構築に関わる課題解決に向けて、共同研究を通してチームワークを最大化できる能力のチームワーク型国際共同研究力を有する人材の育成を目的としている。 基礎論や言語・文化基礎から専門科目やチームワーク型共同研究まで構造化された人材育成プログラムを初学者にも配慮しつつ提供するとともに、専用組織の設置や専任職員の配置を行なうなど、全体として概ね計画どおりに進んでいる。また、両国の学生がプログラムを完遂できるようにeラーニング教材を導入するなど、学修環境が適切に整備されていることや、国際運営委員会による修了認定を実施することで、プログラムの質保証にも手厚い配慮が見られる。当初計画にはなかったが、スタディツアーによりプログラムを周知することで、インドでの学修に対する日本人学生の関心を喚起している点も評価できる。 一方で、日本側のチームリーダー型プログラムへの参加者は少ない状態であり、3か月以上の派遣数は計画を下回っている。課題解決に向けたチームワーク型国際共同研究力を有するリーダーの養成がプログラムの根幹を成すことに鑑み、チームリーダー型プログラムへの参加者増に向けた対策が望まれる。また、日印サステナブル開発コンソーシアムに9の企業が参加を表明しているが、インターンシップの実施など、学生の活動への積極的な関与が実現できていない。当該コンソーシアムは、プログラムの社会実装の観点から重要な位置付けとされていることから、より多くの企業の参加を得て有効に機能させていくことが必要である。 最後に、今後も補助期間終了後の安定的な財源確保に努めるとともに、学内や関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的にプログラムを展開していくことを期待する。	